

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) バトルクラス編



格闘士クエスト

格闘士ギルド 入門編

格闘士ギルド受付

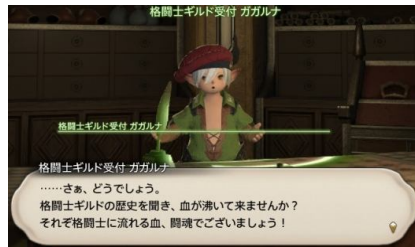
ガガルナ : ようこそ、こちらは「格闘士ギルド」です。当ギルドにご興味がおありでしょうか？
鍛えぬいた拳と蹴りで、素早く敵に連続攻撃を打ち込む「格闘術」。ここはかような格闘の使い手が、その力を磨く場所。
貴方も格闘術を極めんとするのであれば、当ギルドに入門し、修行することをお勧めいたしますよ？

いいえ

左様でございますか、もったいない。私が見るに、貴方の身体つき……格闘士への適性を感じますよ？

格闘士ギルド受付 **はい**

ガガルナ : 素晴らしい、それでは私ガガルナが、格闘士ギルドの歴史についてご説明致しますよう。
「手足を武器とした武術」というもの自体は、ウルダハだけに留まらず、エオルゼア各地でそれぞれ発達を遂げてきました。
ですが、コロセウムにて「**拳闘興業**」が始まったことで、各地から格闘術の使い手がウルダハへと集まるようになったのです。
そして、拳闘興行を通じて各流派の技がぶつかり合い、磨き抜かれる中、ひとりの天才が現れます。
女拳闘士「コーネリア」。彼女は武器を使わぬ「拳闘試合」だけでなく、「剣闘試合」にも出場し、大会で優勝さえ果たしました。
そんな彼女に、教えを請おうと、多くの者が集まるようになったのは道理というもの。
彼女が体系立てた技こそが、現代「格闘術」の源流であり、彼女が築いた道場こそが「格闘士ギルド」の礎なのです。
……さあ、どうでしょう。格闘士ギルドの歴史を聞き、血が沸いて来ませんか？ それぞ格闘士に流れる血、闘魂でございましょう！
さて、先んじて御入門の意志はお伺いしましたが……実際に入門を許可するのは「ギルドマスター」となります。
私が手続きを承りますので、入門の意志が固いものとなりましたら、再度私、ガガルナまでお声がけくださいませ。



疾風の格闘士

格闘士ギルド受付

ガガルナ : さあ、どうですか？「格闘士ギルド」への入門を決意するなら、門戸の開いている今しかありませんよ？

いいえ

そうですか……もったいない。「拳聖」と呼ばれたハモン様の弟子となる、数少ない機会なのですよ？

はい

ハモン様はかつて「拳聖」と呼ばれた、凄腕の格闘士です。現役を退いてからは、ここで若手の指導をしておられますが、その腕は、老いた今もお健在です。

……さあさあ、気が変わらないうちに、奥におられるハモン様に、入門の意志をお伝えください！

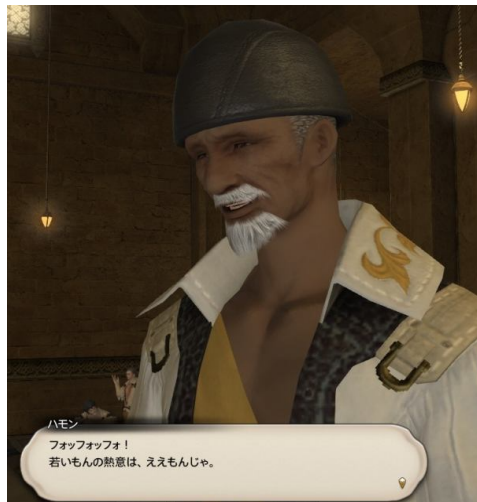
ハモン : フォッフッフッフ、遅かったのう。踊り子の姉ちゃんに、ワシの恋文を渡してくれたかの？
む？ 見知らぬ顔じゃのう……。もしやお主、格闘士ギルドの入門希望かえ！？ こりゃあ嬉しいのう！！
では、伝説の格闘士であるこの「拳聖のハモン」が、お主のために、格闘術の説明をしてやろうかのう！
格闘術とは、己の鍛え抜いた四肢を使い、軽やかに連続攻撃をたたき込む武術であるぞ。
「一撃の重さ」よりも「手数之多さ」こそ格闘の本分！
格闘士ギルドに入門すれば、無限と続く連続攻撃を、このワシから直々に教わることができるのじゃっ！
フォッフッフッフッフッフッフ！
フォッフッフッフ……フォゴッ！ ウォッホン！……ぜえ……ぜえ……久々にたくさん喋って疲れたのう。
さ、さあ……お主に問わせてもらうぞい。無限の連続攻撃を手に入れるために、厳しい修行を乗り越えてゆく闘魂はあるか？

いいえ

ハモン : し、ショック！ ハモンショックじゃ！ 拳聖にショックを与えるとは、お主やるのう！！

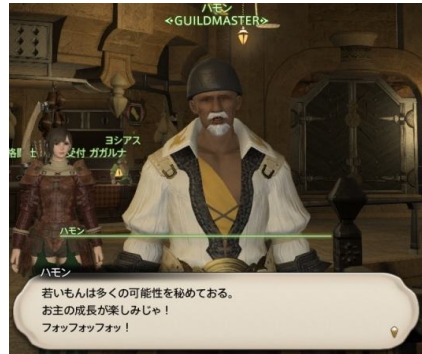
はい

ハモン : フォッフッフッフ！ 若いもんの熱意は、ええもんじゃ。
よし、さっそくお主の討伐手帳に、格闘の鍛錬に相応しい敵を記した項を加えておくぞい。
そして、格闘士としての一步を踏み出した若いお主に、この「ウェザードホラ」もプレゼントじゃ！
さっそくお主の力量の程を試そうかのう。ウェザードホラを装備し、「格闘士」になったら、再びワシに声をかけるのじゃ！



拳の一撃

- ハモン：よし、いい格闘士の顔つきになったのう！さっそくお主の力量の程を試そうかのう。
「スナッピン・シュルレー」「マーモット」「ヒュージ・ホーネット」を、それぞれ3体、倒してみてきんしゃい！
もちろん全て、そのホラを使って、じゃ！全ての魔物を倒したら、報告しに帰ってきんしゃい！
- ハモン：おお、帰ってきよったか。若いもんはええのう、スタミナが有り余っておるようじゃ！
敵と戦い、修行をつむことで、お主自身のスタミナは上がっていくのじゃ。じゃから、日々の鍛錬を大事にするんじゃよ？
鍛錬を積み、さらなる高みに達したとき、次の課題を与えるぞい！
若いもんは多くの可能性を秘めておる。お主の成長が楽しみじゃ！ フォッフオッフオッフ！



岩よりも硬く

ハモン：フォッフッフ、真面目に鍛錬しているようじゃのう！ 今日からは、連続攻撃の基礎を学んでもらうのじゃが……
その前に、ウォーミングアップの走り込みじゃっ！
都市内に「古びたギル硬貨」を散りばめてあるからのう。お主は、時すらも追い抜く速さで、それを拾い集めにいくのじゃ！
走り回るときは「スプリント」を活用するがよい。スプリントを使用するとのう……疲れるんじゃ！！
疲弊した体が、どれくらい経つと回復するのか。そういったことも意識しながら走りまわると良いぞ。
いざ技を打つときに、疲れて手が上がらなへい。……なーんてことにならないためにも、今のうちに、体で覚えるのじゃ！

ハモン：ほれほれ「古びたギル硬貨」はワシが置いたからのう、さっさと返してくれんかのう？
ひい、ふう、みい……。ふむ、500ギルか、しっかり貰っておくぞい！
……ゴホン、では連続攻撃の基礎修行その壱。それは、岩よりも硬い一撃を手に入れるための修行。……その名も「岩殴りの修行」じゃ！
「スコーピオン交易所」近くの岩を「連撃」で打つと、岩に擬態したアーススプライトが現れるからのう。
4つの「試練の岩」に潜む敵を、全て倒すのじゃ！
思ったより敵が強くてピーンチ！！ ……なんて時は「スプリント」を使い、一度退くのも良い判断じゃろう。
「フェザーステップ」などを使って体勢を整えたら、拳を構えて再度挑戦すればよいじゃろう！
岩を打ち、敵を砕き、硬い拳を鍛えてくるのじゃい！

ハモン：フォッフッフ、全て倒しよったか！ 簡単な試練を与えたつもりはなかったんじゃがのう。
やはりお主、見込みがあるようじゃ。お主の底抜けのスタミナを見ておると、昔のワシを思い出すようじゃよ。

チュチュト：師匠、よかったわね。新人さんの修行、順調みたいじゃない！

ハモン：まあ、拳聖と謳われたワシが、◇◇◇を指導しておるのだ、当然じゃよ！

チュチュト：ウフフ、さすが師匠ね！

ハモン：おお、そういえば◇◇◇には、師範代のチュチュトを紹介しておらんかったな。

チュチュト：チュチュトです。師範代といっても、まだまだ未熟なの。一緒に頑張ろうね！



ハモン：チュチュトはワシがギルドマスターになった時、一番初めに弟子になった子なんじゃ。……当時弟子はもう一人いたんじゃが。

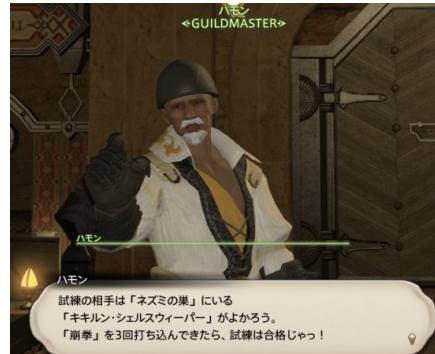
チュチュト：……師匠、もうその話はいいじゃない。
ところで師匠、私が◇◇◇のために町中に置いておいた小銭、師匠が回収してたわよね？ あれ私のなんだけ……

ハモン：ち、チュチュト。そ、その話はいいじゃろう。いいか、今は◇◇◇の成長の話じゃからな。
ゴッホン！ ◇◇◇よ、さらなる鍛錬をつんだら、次の修行に臨むからのう！
ワシのような素晴らしい拳聖になるためにも、日々の鍛錬を怠るでないぞ！ フォッフッフッフッフ！

疾風迅雷の如く

ハモン： フォッフオッフオ、いい目つきになってきたぞい。ワシのような拳聖になりたくて、頑張っとるようじゃのう！
基礎その壱では、拳の「硬さ」を鍛えたが、基礎その弐では、拳の「数」を鍛えてゆくぞ！
修行用の「木人」を、外に5体立ててある！ そいつらにスリバーンと「連撃」を叩き込んでこーい！

ハモン： 木人共を倒してきたなら、さあ基礎の仕上げというぞ！ 仕上げはとうとう「連続攻撃」が課題じゃ。
今まで学んだことを、全て叩き込んでくるのじゃ！
連続攻撃には決まった「型」の流れがあるぞい。「連撃」から「正拳突き」、そして「崩拳」を決める！
この基本の型の流れを、まずは試すといいじゃろう。
流れに乗った時、お主は「疾風迅雷」の境地に至り、より素早く、多くの攻撃を繋げることができるのじゃ。
疾風迅雷の境地で、連続攻撃を無限と繋ぐこと…… それこそ「無限の連続攻撃」が目指すところじゃ！
試練の相手は「ネズミの巣」にいる「キキルン・シェルスウィーパー」がよからう。「崩拳」を3回打ち込んできたら、試練は合格じゃっ！



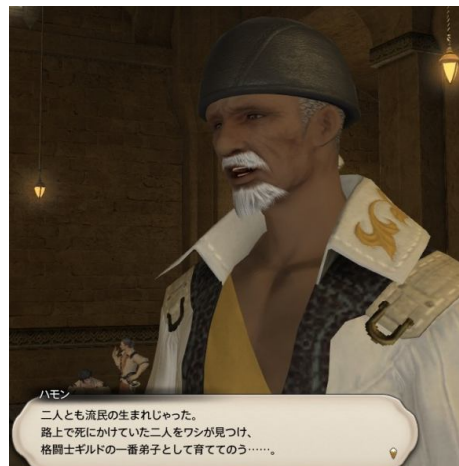
ハモン： ひょーっ！ ◇◇◇は飲み込みがいのう！ もう「疾風迅雷」の境地を体得したとは、素晴らしい！！
ま、まあワシも「疾風迅雷」は大得意なんじゃよ？ 今ここで見せてやりたいところじゃが……

チュチュト： 「技の爆風でギルドが倒壊してしまうからのう……。残念ながら、見せてやることはできないのじゃあ。」……でしょ？
師匠ったらそう言って、私たちに技を見せてくれないの。だから、師匠の強さは「伝説」の中でしか聞けないのよ。
斧を持った大男すら、流れるような技で沈めた……とかね。

ハモン： フォッフオッフオ、懐かしい話じゃのう。

チュチュト： それにしても◇◇◇の成長を見ると、焦るなあ。私も……負けないように、頑張ってたっさん修行しなきゃ。

ハモン： ……実はのう、チュチュトは少し、伸び悩んでおる。きっかけは、彼女と格闘士ギルドに入門したワシの元弟子、
「ルルクタ」の失踪が原因じゃろうなあ……。
二人とも流民の生まれじゃった。路上で死にかけていた二人をワシが見つけ、格闘士ギルドの一番弟子として育ててのう……。
当時は二人が互いに切磋琢磨し、いいライバル関係を築けていたのじゃが……。
……爺のひとりごとだ、気にするでない。お主はこれからも、鍛錬に励むのじゃよ！



闘魂の行方

ハモン：フッフッフ、鍛錬をきちんと続けているようじゃのう。さて、今回は「アンホーリーエア」に棲みついでおる、「トキシクトード」を5体倒すのじゃ。
でかい相手でも怯むでないぞ！ 相手の隙を見つけた時は、「カウンター」が有効じゃ。チャンスがあったら、効果的に使うとよいじゃろう！
そうじゃ、トキシクトードを倒した証として、「トキシクトードのモモ肉」を持ってくるんじゃよ。ゆめゆめ忘れぬようにな。
その後の修行も、付近で行う予定じゃ。「ブラックブラッシュ停留所」でチュチュと共に、お主の報告を待っておるぞ？

チュチュト：今日の修行は、私も参加するんだ！ 一緒に頑張ろうね、◇◇◇！

ハモン：トキシクトードのモモ肉は、手に入れることができたかのう？
さすが、新鮮なトキシクトードのモモ肉じゃ！ じっくりバターで炒めて、サンレモンを一振りすれば……じゅり。

チュチュト：……師匠？



ハモン：……と、当然◇◇◇の修行のためじゃ。別に、今晚のおかずが欲しかったわけじゃないぞ？
さ、さあ次はチュチュトと共に、スタミナを競い合う……

ナナジャピ：あんた、もしかして「拳聖のハモン」か！？ ハモンがいるって噂を聞いたから駆けつけたけど、まさか本当だったとは……！

ハモン：フッフッフッフ！ いかに、ワシが「拳聖のハモン」じゃ！ 有名なもの困りものじゃのう。

ナナジャピ：俺あ生ける伝説「拳聖のハモン」に頼みたいことがある！ ……「ソムヌス香」の密売を止めてほしいんだ！

チュチュト：ソムヌス香…… 夢想花って植物から作られる怪しい安眠薬ね。吸い過ぎると眠ったまま起きられなくなるって……。

ナナジャピ：俺の友達も、ソムヌス香で死にしまった……。だから、密売人を捕まえて流通を阻止したいんだが、奴らなかなか尻尾をださねえ。

ハモン：フッフッフッフ！ そんなこと、この「拳聖のハモン」に任せなさい！

ナナジャピ：さっすが「拳聖のハモン」！ わざわざここまで来たかいがあったぜ！



ハモン：フッフッフッフ！ 今回は元々実戦が目的じゃからのう。◇◇◇の修行を、密売人の捕縛に変更じゃ！
◇◇◇、チュチュトよ、まずは付近で情報収集をしようかのう！ 人々に聞き周りをして、密売人の情報を集めるのじゃ！

ツツメダ : ソムヌス香を密売してるのは、犯罪組織「アラクラン」の構成員らしい。奴らは常に複数人で動いているそうだな。

オスベルト : ここから西に行った所に、無人になったキキルン盗賊団が昔使っていたアジト跡がある！ 念のため、近づく時は気をつけるよう！

チュチュト : ……銀髪のララフェルが、ついさっき不審な動きをしていたらしいわ。大きな荷物を持って、西の方に向かったって……。



ハモン : アラクラン……無人のアジト跡の人影…… そして銀髪のララフェル……か。どうも嫌な予感がするのう。
さっそく、酒房「コッファー&コフィン」の西にあるというキキルン盗賊団のアジト跡に向かうぞい。
密売人を待ち伏せするんじゃ！

ハモン : あ、あれは……！

アラクランの一味 : へっへっへ…… ルルクタよお、今回もたんまり仕込めたなあ。ヴェッグファル様がお喜びになるだろう。



銀髪のララフェル : 御託はいいい……さっさと、運ぶぞ。

チュチュト : ……ルルクタ！ ルルクタ、あんた何やってんの！？

ルルクタ : ……チュチュト、随分久しぶり。それに、師匠……か。

チュチュト : ねえ、あんた本当に「アラクラン」に入ったの？ なぜ格闘士ギルドをやめてしまったの？
心配してたのに……こんな「ソムヌス香」の密売なんて！

ハモン : のう、ルルクタよ。ワシは、お前を闇の世界で生かすために、格闘術を教えた訳じゃなかったんじゃがなあ……。
アラクランの密売人ごとき、ワシが手を下すまでもない。チュチュト、◇◇◇よ、お主らに課題じゃ。
アラクランの密売人を捕らえてみせい！

ルルクタ : お前ら……相手にしてやれ！

明星のチュチュト : ◇◇◇、力を合わせて頑張ろう！

明星のチュチュト : 師匠から教わった格闘術があれば……この程度の敵なんて！

明星のチュチュト : ◇◇◇！ そっちのマーモットはお願い！

明星のチュチュト : 斧術のオーバーパワーには、巻き込まれないようにね！

明星のチュチュト : ◇◇◇！ アラクランの格闘士の技は強力よ、後ろに避けて！

ルルクタ : ちっ……使えないな、ひとまず逃げるぞ……。

アラクランの一味 : 「拳聖のハモン」か……クソッ！

ハモン : いかにも、ワシが拳聖のハモンじゃ。さあ、観念しなさい。



ハモン

いかにも、ワシが拳聖のハモンじゃ。
さあ、観念しなさい。

ルルクタ

「拳聖のハモン」か……。
チュチュト、お前も騙されているんだ。

チュチュト

師匠に騙されている……。？
何を言っているの？

ルルクタ：「拳聖のハモン」か……。チュチュト、お前も騙されているんだ。

チュチュト：師匠に騙されている……。？何を言っているの？

ルルクタ：まだ、格闘士ギルドにいたころ……。俺が深夜に、外で修行をしていた時だ。
酒場から出てきた師匠を、偶然見かけ、俺は呼び止めようと思って、その後を追った……。
その時マーモットが師匠に……。俺は見てしまった。

ハモン：フ……。一体何のつもりじゃ？ 技の無限地獄と恐れられた「拳聖のハモン」を、バカにしておるのか？
チョアーーーーーーーーッ！！！！！！

チュチュト：……。師匠？

ハモン：ハハハ……。わしの拳を見きるとは、できるマーモット……

チュチュト：し、師匠お……。！

ハモン：グフッ……。逝く時は……。セクシーなギャルに囲まれていたかった……。

チュチュト：師匠！くそジジイ！どういふことが説明しなさ……。いっ！！



チュチュト

師匠！くそジジイ！
どういふことが説明しなさ……。いっ！！

ルルクタ : 師匠は……師匠は俺たちを騙してたんだ。拳聖のハモンなんて、マーモットより弱かったんだよ。

アラクランの一味 : あの「拳聖のハモン」が、弱くなっていたとは！ ヴェッグファル様に面白い報告ができるぜ！

チュチュト : し、師匠が……あんなに弱かったなんて……。

ハモン : ……すまぬチュチュト、そして◇◇◇よ。騙すつもりはなかったんじゃ……。あらゆる強豪には勝ってきたワシじゃが…… 寄る年波には勝てなんだ……。連続攻撃を繋げるスタミナが、闘魂が……。……一度ギルドに帰ろう。後の指示はチュチュトに任せよう……。

チュチュト : はあ、もう全っ然だめ。師匠ったら凄く落ち込んだみたい。たしかに師匠は、私たちを騙していたけど…… でも、私は師匠のことを嫌いになんたりできない。私にとって命の恩人だってことは、変わらないから。でも、このままじゃ師匠って、ただのダメ人間でしょう？ だから私、師匠に昔のことを思い出してもらうために、作戦を練ったの！ 師匠はあなたのこと「昔の自分に似てる」って言ってた。だから、強くなっていく◇◇◇を見れば、昔の自分を思い出すんじゃないかしら？ だから、あなたのためにも師匠のためにも、◇◇◇に、師匠も昔得意だったという格闘術の技を教えてあげる！ その名も……「秘孔拳」！ これは秘孔と呼ばれる生物の急所を突くことで、強烈な痛みを、継続的に与える技よ。新しい技を活用して、鍛錬に励んでね♪ 更に強くなった貴方を、師匠に見せてやりましょう！



闘魂に火をつけろ

ハモン： はあ……◇◇◇か……。わざわざ来てもらってすまないが……。今日はチュチュトに指導をしてもらってくれ……。

チュチュト： ふーむ、強くなった◇◇◇を見ても、まだ師匠はやる気を起こさないみたいね……。もっともーっと闘争心を煽らないと……。……そうだ！ ◇◇◇が、師匠が若いころ苦労した修行を楽々やり遂げちゃえば、闘争心を煽られるんじゃないかしら？ 師匠は昔、連続攻撃を磨くために、わざわざ怒らせて凶暴になった魔物と戦って、修行をしたって言ってた。例えば、ドライボーン南方にある蜂の住む木に「連撃」を使って、怒った蜂の群れを倒してみたい。今でもそこには「拳撃の痕跡」が残ってるらしいわ。あなたがそこで同じ修行をして、師匠に「ホーネットの毒針」を見せつけられれば、師匠は当時の闘魂を思い出すはずよ！

ハモン： なんじゃあ……。ワシのことは、放っといってくれんかのう……。こっこれは……ホーネットの毒針！？ まさか、あの木を使って修行をしたのか！？ ◇◇◇がやり遂げたのか……！ お主が、若い頃のワシの修行を軽々と……！ ぐぬぬ……ワシだって……ワシだってまた…… かつてのスタミナを！！ 闘魂を取り戻したい！！ ◇◇◇、◇◇◇よ！ 手合わせをしようぞ！ この熱い想いを忘れぬうちにじゃ！！

拳聖のハモン： ヒョッヒョッヒョ！ いっくぞーい！！
拳聖のハモン： 拳聖のハモンの拳を、しかと目に焼き付けるが良い！
拳聖のハモン： ぐふうっ！ ジジイに向かって、容赦無いのう……。
拳聖のハモン： よ、予定通り！ 拳の感覚を思い出してきたぞい！
拳聖のハモン： 次こそワシの真の力を出す！ 覚悟するんじゃよ！
拳聖のハモン： それぞれ！ 拳聖のハモンは止まらんぞい！！

チュチュト： 師匠……あぁもう、見てらんないわね……。

拳聖のハモン： おほうっ！ も、もうちょっと優しくして……。
拳聖のハモン： け、計画通りじゃのう！ 力がみなぎってきよったわい！
拳聖のハモン： もう一戦！ 最後にもう一戦やるぞい！！

チュチュト： し、師匠……まだやるのお！？

拳聖のハモン： 今度こそ……真の最強の超凄い拳聖の力、見せてくれる！
拳聖のハモン： まだじゃ……まだワシは戦えるっ！
拳聖のハモン： ◇◇◇の拳の痛み……気持ちいい……。
拳聖のハモン： ぐはぁっ！ わ、ワシ……なんだか目覚めちゃいそう……。！

ハモン： ヒョッヒョッヒョ！ ◇◇◇と戦うと、昔の自分と戦っているような気持ちになる……。この調子で修行を続けられれば、昔のワシのように……。！

？？？？： ぶぁーっはっはっはっは！！ 老いぼれジジイが、ヨチヨチ歩きの実習かい！？

ハモン： き、貴様……。もしや「大斧のヴェッグファル」か！？

ヴェッグファル： 懐かしいねえ、表舞台にいた時の通名だ。拳聖だった頃のお前に負けてから、俺をその名で呼ぶ奴はいなくなったよ。今は天下の「アラクラン」で、商売をやってるのさ。そうそう、ルルクタも俺の部下だ。まあ、お前の元弟子とは知らなかったがな。かつての拳聖も老いぼれちまって、不安で夜も眠れないんじゃないか？ ソムヌス香があれば、安心して眠れるぞ？ まあ、老いぼれジジイがつかったら、眠ったままボックリ死んじやうかもしれねーがな！ ぶぁーっはっはっはっは！！



ヴェッグファル

懐かしいねえ、表舞台にいた時の通名だ。
拳聖だった頃のお前に負けてから、
俺をその名で呼ぶ奴はいなくなったよ。

ハモン : 余計なお世話じゃ！ あと僅かで「拳聖のハモン」は完全復活するからのう！

ヴェッグファル : ぶぁーっはっはっはっは！ 老いぼれたジジイが、復活？ 笑わせるぜ！
その復活とやらができたら、観衆の前で対決でもするか？
ただし、俺が勝ったら格闘士ギルドをいただくがな。ソムヌス香をウルダハ市民に売りさばくじゃ、もってこいの場所じゃねえか！

チュチュト : そ、そんなのダメに決まってるでしょ！？

ヴェッグファル : お、後ろの可愛い子ちゃんは店の看板娘にしてやろうか？ そんなじゃあ、決闘の日を楽しみにしてるぜ！
ぶぁーっはっはっはっは！！

チュチュト : ほ、本気で戦うつもり……？

ハモン : チュチュトよ、安心しろ……。

チュチュト : し、師匠……。

ハモン : ◇◇◇わかってるな……？ 格闘士ギルドが奪われてしまうかどうかは……
◇◇◇にかかっている！！

チュチュト : く、クソジジイ……！



ハモン : ◇◇◇が強くなればいいんじゃないよ！ 強くなった◇◇◇と戦えば、また、若き日の闘魂を思い出すことができるのじゃい！
……不安か？ 確かに、ワシは今とんでもなく弱い。今のまま奴と戦ったら、一瞬で負けるじゃろう。
……じゃが、ワシはまだ、これからじゃ！！ ◇◇◇のおかげで、闘魂に火がついたからのう！
ヒョーっヒョッヒョッヒョ！ ワシも久しぶりに修行をして、スタミナを上げねば！ お主も腕を磨いたら、またここに来るのじゃよ！

燃える明星、駆ける流星

ハモン：フオッフオッフオ！ 昔のワシ……いや、◇◇◇よ！ さらなる鍛錬をつんできたようじゃなあ！
しかし、気を抜くでないぞ。お主だけではなく、ワシだって鍛錬を続けておる！
でなければ、お主にもヴェッグファルにも勝てんからのう！
今日の修行もチュチュトに指示を貰うのじゃ。久々に修行をしすぎて、身体の節々が痛くてのう…… イタタタタタ……。

チュチュト：師匠ったら、◇◇◇の存在と、ヴェッグファルとの決闘が、かなり刺激になったみたいね！
フフフ……今日のあなたの修行については、ちょっと私に考えがあるの！ 「リトルアラミゴ」で待ち合わせよ！

チュチュト：来たわね、◇◇◇。今回あなたにしてもらう修行は…… 「師匠の修行の準備」にしようと思うの！
修行といったらこれよね、「木人」！ これを、いろいろな場所に設置してほしいの！
……後で師匠の修行に使うために、ね♪
危険な場所に設置しなきゃいけないから、◇◇◇の修行にもなるわよ！
これぞチュチュトちゃんの、一石二鳥アイデアだっ！
危険な敵に近づく必要があるときは、「フェザーステップ」や「金剛の構え」を活用するといいわ。
うまく敵をあしらって、木人を立ててきてね♪ それじゃあ、頑張っていってらっしゃい！

チュチュト：凄いわ◇◇◇、ありがとう！ ◇◇◇が設置した木人を、師匠が全部倒せたら……
師匠はもっともっと強くなるはずよ！
……あら、裏切り者がなんの用かしら。

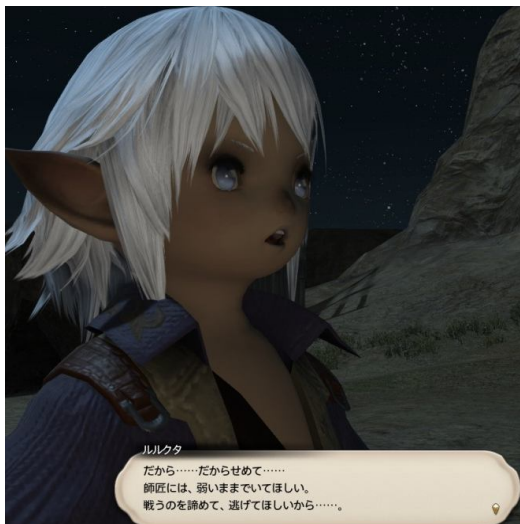
ルルクタ：……お前らが余計なことをすると、師匠が、強くなる。そう、◇◇◇さえいなければ……。

チュチュト：アンタって……心まで腐っちゃったのね！ そんなこと、させるわけないでしょ！

流星のルルクタ：どけ、チュチュト！ 俺は◇◇◇を……殺す！
明星のチュチュト：いやよ！ ◇◇◇は私が守る！
流星のルルクタ：ブラッドハウンド達よ……◇◇◇を噛み殺せ！
明星のチュチュト：◇◇◇！ ウォーハウンドに気をつけて！ そいつは先に仕留めたほうがいいわ！
流星のルルクタ：チッ……こうなったらバステト！ ◇◇◇を殺せ！！
明星のチュチュト：バステト！？ アンタ、なんてもん連れてくんのよ！！
明星のチュチュト：◇◇◇、そいつのカオティックアイはスタミナを奪うわ！ 目を合わせないように気をつけてっ！
明星のチュチュト：くっ……ルルクタ、腕を上げたわね……！

チュチュト：ルルクタ……教えて。ヴェッグファルから命令されて、こんなことしてるの？
そこまでして師匠を、格闘士ギルドを台無しにしたいわけ？

ルルクタ：……違う！ これは全て、俺の意志！ たしかに俺は、師匠の弱さにショックを受け、格闘士ギルドを、飛び出した……。
飛び出した後……金も、身よりも、学もない俺を受け入れてくれたのは、裏社会だけだった。
確かに今の俺は、裏社会の人間だ……けど……
貧民街で、ゴミみたいに扱われてた俺たちに、初めて優しくしてくれた、師匠への感謝…… それを忘れたわけじゃない！
俺は知っている、ヴェッグファルは強い。奴と戦ったら、師匠もケガだけではまない……。
だから……だからせめて…… 師匠には、弱いままでもいい。戦うのを諦めて、逃げてほしいから……。



チュチュト : ……まったく。あんたって相変わらず不器用なのねっ。

師匠なら大丈夫。◇◇◇が強くなればなるほどね、師匠はどんどん元気になっていくの！

◇◇◇の成長のペースなら、師匠は決闘の日までに、完全復活できるはずよ！

だから安心して、真っ向勝負なら師匠は絶対に負けないわ！

ルルクタ : ……………俺の立場では何もできない…………だから。チュチュト、◇◇◇……師匠を、頼む。

チュチュト : ……ぶはー！！ ルルクタと久々に拳を交えて、本心も聞けてよかった！ 心のつかえがとれたって感じ！

さーて、スッキリしたところで、早く師匠に木人を壊してもらいにいかなきゃね♪ ◇◇◇、ギルドに帰りましょ！

ハモン : ◇◇◇、おかえり。先に帰ってきたチュチュトに聞いたぞい、ワシのために木人を設置してくれたらしいのう！

しかしのう、よりによって危険な場所に……。しかも、全ての木人を倒してくるまで、夕飯はお預けじゃとチュチュトが言いよる……。

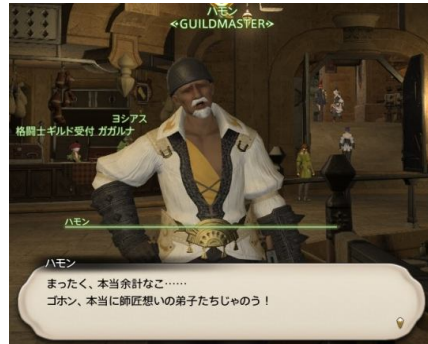
まったく、本当余計なこ…… ゴホン、本当に師匠想いの弟子たちじゃのう！

……それと、ルルクタのことも聞いた。

ルルクタは心根が良い子じゃからのう、奴なりに、ワシのことを心配してくれたのじゃろう……。

じゃが、ワシはまだまだ逃げるわけにはいかん！！ 不屈の闘魂、沸き上がるスタミナを、◇◇◇が思い出させてくれたからのう！

さあて、ちょっと木人を倒しに行ってくるかのう！ ◇◇◇、うかうかしてると、ワシがお主を抜いちゃうぞーい！！



拳の聖人

ハモン：まったく、お主が前回置いてきた木人、どこもかしこも、ひどい場所じゃった……。じゃが、おかげでワシもかなり鍛えられたぞ！さて、そろそろワシの完全復活も近い。◇◇◇と再び手合わせすることで、最後の感覚を取り戻したいのじゃ！場所は、かつてワシが修行を積んだ、ザゴリー砂漠！その砂漠にある、セクシーなミコツテ族が住む集落……「忘れられたオアシス」で、最後の特訓をしようぞ。

ハモン：この辺りの景色は、懐かしいのう。かつて、砂漠を駆けずり回って修行したあの砂の感触……。そして水浴びを楽しむ、セクシーギャルの笑顔……。じゃが、ひとつだけ思い出せぬ、技の呼吸があるのじゃ。それをどうしても思い出したいのじゃがのう……。そのためにも、◇◇◇よ、お主と今すぐにでも手合わせをしたいところじゃが……。その前に、お主にクリアして欲しい課題がひとつある。それは、サンドウォームを5匹倒すことじゃ。手合わせの前の、肩慣らしじゃよ。フッフッフッフ、この程度余裕じゃろ？ じゃって、ワシはもう、お主が来る前に……。サンドウォーム倒しちゃったもんね！！ヒョッヒョッヒョ！ ジジイ、一歩リードじゃっ！ ◇◇◇よ、お主も早く倒してくるのじゃー！

ハモン：成功したか！ さすが若き日のワシ……。いや、◇◇◇じゃ！ 簡単に前には行かせてくれぬのう！じゃが、連続攻撃による疾風迅雷の境地を思い出さねば、奴を……ヴェッグファルを倒すことはできん！さあ、ワシに連続攻撃を打ち込んでくれ！！今、お主の連続攻撃を我が身に受ければ、勘を……無限の闘魂を取り戻せる気がするのじゃあ！

拳聖のハモン：さあ！ ワシをどーんと殴るんじゃ！
拳聖のハモン：遠慮はいらぬ！ 存分に崩拳を打ち込むが良い！
拳聖のハモン：はうっ！ 痛い！ だが、もっと……もっとじゃ！
拳聖のハモン：これじゃ！ この痛み……何かを思い出そうっ！
拳聖のハモン：この感覚……この闘魂……！ これじゃー……！！
拳聖のハモン：ヒョヒョヒョー！ ワシ、まだまだ成長期！！
拳聖のハモン：今度は試合じゃ、手合わせじゃ！ 次は、勝つぞい！！
拳聖のハモン：……まだじゃ！ ワシはまだ倒れぬぞ！！
拳聖のハモン：イタタタタ……次は……次こそは、勝あつ！！
拳聖のハモン：ヒョッヒョッヒョ！ 何度でもワシは、立ち上がるぞい！
拳聖のハモン：今度こそは本当に……お主に勝ちにいこうぞい！！
拳聖のハモン：拳聖のハモンの粘りは、ここからじゃーい！！
拳聖のハモン：はあああ……わ、わかった……わかったぞい！

ハモン：はあ、はあ……。わかった、わかったぞ……。打たれても打たれても、折れない気持ち。困難な状況であればこそ、奮い立つ闘魂。10発殴り込まれても、20発返す気合じゃ！◇◇◇、ありがとう。お主と戦って、お主の戦い方を見て……。全てを思い出すことができた！！

チュチュト：師匠、◇◇◇！ ヴェッグファルが、ウルダハに来たわ！ 師匠を探してる！！

ハモン：◇◇◇、チュチュト、ウルダハに戻るぞ！ この「拳聖のハモン」が……。ヴェッグファルを、返り討ちにしてくれるわ！！

ヴェッグファル：どうだい拳聖のハモンさんよ！！ 俺も大人だ、負けを認めて逃げ出せば、老いぼれジジイの命まではとらねえぜ？

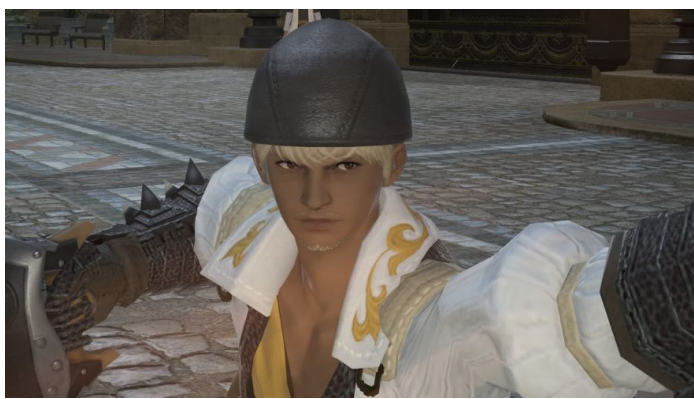


ハモン：決闘を申し込んだ者が不戦勝を狙うとは、滑稽じゃのう。力を取り戻したワシと戦うのがそんなに嫌なら、やめてもいいんじゃないや？

興奮する観衆：おい、あの格闘士ギルドの「拳聖のハモン」が、久しぶりにその技を披露するらしいぞ！！

沸き立つ観衆：なにそれ、やばい！ コロセウムのカードより熱いじゃん！！

ヴェッグファル：ぎゃっはっは！ 拳聖のハモンも、さすがに老いがきているなあ！ ボケが進行しちまってるようだぜ？ さあ、始めようぜ？ 俺の太刀で、老いぼれジジイの首をはねてやるよ！



ハモン：……懐かしいだろ、昔お前に打ち込んだのと同じ拳だ。だから「やめてもいい」って言ってやったんだぜ？

興奮する観衆：うおおおおおおおおおおおお！！！！

沸き立つ観衆：さすが拳聖のハモン！！ 目にも留まらぬスピードで技を繰り出したぜ！

ヴェッグファル： くそっ！ くそっ！ くそおおおお！ 俺の大斧が、老いたジジイにまで負けるなんてことが……！
 野郎どもお！ でてこいいりりりりりり！！
 こいつはなああああ！！ 「ソムヌス香」を応用した新薬、「**ブルト**」香」だあ！
 吸ったが最後おおおおおおおお！ 刃も通さぬ強靱な肉体でええええええ、てめえらをなぎ倒してやんよおおおお！！！！

ハモン : フン、往生際の悪いやつじゃな。

チュチュト : ルルクタ！

ルルクタ : 卑怯者の肩を持つ主義は、ない。俺はこっちに、つかせてもらう。

ヴェッグファル： ギャーっはっはっはっはっはっはっは！！ てめえら全んんんいいいいいんんん！！
ぶつつ潰してやるよおおおお！！

大斧のヴェッグファル：ぎゃっはっはっはっは！ 殺す！ 全員殺す！！

拳聖のハモン： ヲエッグファルは、ワシに任せるのじゃ！

流星のルルクタ：◇◇◇、俺たちは雑魚を片付けよう。

明星のチュチュト : サポートは私に任せてっ！

流星のルルクタ： ヴェッグファル……こいつ仲間まで殺すなんて……！

明星のチュチュト : 完っ全にイかれてるわね！

明星のチュチュト : ヲェッグファルに近づくと危険だわ、離れて戦いましょう！

大斧のヴェッグファル：ギャッハッハッハッハ！ 老いぼれの分際で、しぶてえジジイだなああ！！

大斧のヴェッグファル： だが、テメエの大事な弟子を殺しちゃったらどうだ！？ 俺あちょうど、癪に障る小蠅が気になっててねえ！！

明星のチュチュト：ヴェッグファルよ、お主の敵はワシじゃろう!!!

拳聖のハモン：◇◇◇！ ヴェッグファルが来るわ！ 注意して！

チュチュト : はあ、はあ、はあ……師匠、勝ちましたね!! 師匠ならできると、私ずっと……!

ルルクタ：師匠……。

ハモン：ワシの勝利、という言葉は適切ではないな。これはいわゆる「皆の勝利」ってやつじゃぞ？



明るい青年： すごい！ 格闘士ギルドの連中が、悪そうな奴らをみんなぶっ飛ばしちゃったぜ！

陽気な老人： さすが拳聖のハモン率いる、格闘士ギルドの連中だ！

ハモン： さあ、お前ら！ 格闘士ギルドに戻るぞい！ 凱旋じゃっ！

ハモン： ◇◇◇、まずはありがとうと言わせてくれ。お主のおかげで、ワシはかつての闘魂を取り戻すことができたのじゃ。それだけじゃない、愛すべき元弟子まで帰ってきて、チュチュトも元気になった。

ルルクタ： ……師匠、チュチュト、迷惑を……かけた。俺はアラクランを抜けて、修行の旅に出る。「拳聖のハモン」みたいに、各地に伝説を残すんだ。

チュチュト： やだやだ、かっこつけちゃって。……ま、男のロマンってやつなんでしょ？ 寂しくなったら、いつでもここに帰ってきなさいよ。

ハモン： フォッフッフオ、若いもんはええのう。未来を、夢を追うスタミナがいっぱいあるのう！ ◇◇◇もじゃ！ お主の連続攻撃は、非常に素晴らしかった！ ◇◇◇の未来にはワシ、超期待しちゃうぞい？ そうじゃ、◇◇◇の強さを認め、「拳聖のハモン」直伝の技を教えようかのう。その技「**破碎拳**」。参の型から打ち出す、必殺の技。敵を圧倒して粉碎する、拳と蹴りの攻め手よ。しかし、いくらお主が強くなったとはいえ、お主の格闘士としての道が、平易になったわけではない。新たな敵や、困難が待ち受けるじゃろう。じゃが、◇◇◇なら大丈夫じゃ。すべての困難を打ち砕くことができる、最高の連続攻撃が、お主にはもうあるからのう。妬むな、恨むな、卑下するな！ ◇◇◇はただ、主の闘魂を信じ、スタミナの限り、ひたすら前に進むが良い。その結果、お主が新たな「拳聖」として、世に名を知られる存在になることを、ワシは楽しみにしておるぞ。

登場人物

ハモン：ギルドマスター「拳聖」



チュチュト：格闘士ギルド師範代



ルレクタ：元格闘士ギルド



ヴァッグファル：大斧のヴェッグファル。「アラ克蘭」構成員



ナナジャピ：



ツツメダ：ブラックブラッシュ住人



ガガルナ：格闘士ギルド受付



オズベルト：ブラックブラッシュ銅刃団

